

# MM・関内に進出の神奈川大と関東学院大

# 文教都市・横浜の発展に向けタッグ

## 協定を結び多彩に連携強化

### 教育プログラム開発、キャリア支援などで協力

ともに神奈川、横浜に根差し、長い伝統を誇る神奈川大学と関東学院大学が手を携えて未来へこぎ出す。共同学習・教育プログラムの開発や起業家育成、観光振興など多彩な分野で連携するとともに、今春以降そろって横浜中心部に進出する。少子化が進む中でも一層の飛躍を期し、大胆な改革を推し進める神奈川大学の兼子良夫理事長・学長と関東学院の規矩大義理事長に、包括的連携協定や新キャンパス開設の狙いを聞いた。(文中敬称略)

(聞き手 神奈川新聞社クロスメディア営業局次長・長倉 勉)



兼子 良夫 (かねこ・よしお)  
学校法人神奈川大学理事長・神奈川大学長

**長倉** 神奈川を代表する二つの私立大学が、3月に包括的連携協定を結んだ経緯を教えてください。  
**兼子** 2016年4月に神奈川大学の学長に就任し、すでに先輩の学長としてさまざまな経験を蓄えていた規矩先生にいろいろ教えていただいていた。関東学院大学さんと神奈川大学には、規模が大きいことや神奈川県、横浜市に創設時から根差していることなど、多くの共通点があります。伝統では本学は及びませんが、一緒に神奈川、横浜の大学全体を盛り上げたいと思いい、連携について話をさせていただきました。

**規矩** そもそも大学同士は、敵対し合う関係ではありません。若者を育て、社会に送り出すという共通の目標に対し「協力することによって効果があるなら手を組んだ方がいいですよ」と兼子先生とお話しました。一番近くにお手本があるなら、協

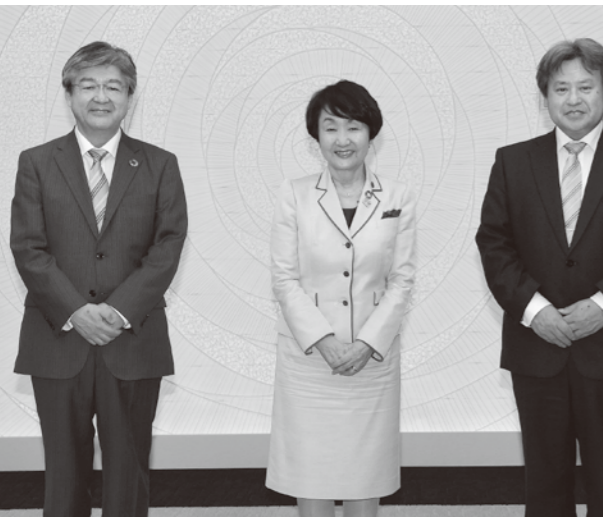
**長倉** MM地区は徐々に空き地がなくなり、最後のピースに神奈川大学がはまった感じです。かたや関内エリアは、市を挙げてベンチャー企業を育てようとしています。そんな中で関東学院大学の

**規矩** MM地区は徐々に空き地がなくなり、最後のピースに神奈川大学がはまった感じです。かたや関内エリアは、市を挙げてベンチャー企業を育てようとしています。そんな中で関東学院大学の

**兼子** 我々が連携のプラットフォームをつくり、自然なコラボレーションの土台を生み出すことに大きな意味があります。「場」を提供することにより、さまざまな研究者や学生、企業、団体などが世界中から横浜に集まってくるからです。さまざま

**規矩** 単に大学が集まれば、文教都市が出来るわけではありません。大学は地域に対してさまざまな貢献をしなければいけないのですが、一方で行政やまちも大学がいて、行動すること

**兼子** そうですね。横浜は、これだけ素晴らしい可能性のある場所なのだから、動かさなければいけません。私は横浜を世界中の研究者や学生が交流する中心地にしたい。それから、学問には「哲学を学ぶなら京都」というような地域イメージがあります。ならば「新しいものを生み出すなら横浜」と言われるようにしたい。産官学がしっかりと連携し、次々と何かを生み出すまち。横浜はもともとそういう場所ですからね。



一層の連携強化を確認する(左から)兼子神大理事長・学長、林文子横浜市長、規矩関東大理事長=横浜市役所

**協力して発信し「東京一極集中」に対抗**  
力を合わせない手はありません。私は、神奈川大学さんの胸を借りるつもりです。  
**長倉** 両大学の連携には、どのような狙いがあるのでしょうか。  
**兼子** 日本の代表的な私立大学といえば、東京の早稲田と慶応、関西の同志社と立命館などが挙げられます。加えて「横浜にある神奈川大学と関東学院大学」と言われるようにしたい。実際には、我々のライバルは東京の大学だと考えています。「東京一極集中」という現実があるためです。協力しながら横浜の地の利

**規矩** そうですね。「東」を生かして発信し、対抗したいですね。  
**課題解決のプラットフォームになりたい**  
長倉 くしくも、両校はほぼ同じタイミングで横浜の中心地に新キャンパスを開きます。中心部への進出はいづろから意識していましたか。  
**兼子** 神奈川大学は今年4月、みなとみらい(MM)地区にのみとみらいキャンパスを開設します。湘南ひらつかキャンパスの開設から30年以上たち、大規模修繕や建て直しなどが話題に上るようにな

**規矩** 関東学院大学は、かながわ県立大学に併設する形で、湘南ひらつかキャンパスの開設から30年以上たち、大規模修繕や建て直しなどが話題に上るようにな

**規矩** 単に大学が集まれば、文教都市が出来るわけではありません。大学は地域に対してさまざまな貢献をしなければいけないのですが、一方で行政やまちも大学がいて、行動すること

**兼子** 我々が連携のプラットフォームをつくり、自然なコラボレーションの土台を生み出すことに大きな意味があります。「場」を提供することにより、さまざまな研究者や学生、企業、団体などが世界中から横浜に集まってくるからです。さまざま

**規矩** 単に大学が集まれば、文教都市が出来るわけではありません。大学は地域に対してさまざまな貢献をしなければいけないのですが、一方で行政やまちも大学がいて、行動すること

**兼子** そうですね。横浜は、これだけ素晴らしい可能性のある場所なのだから、動かさなければいけません。私は横浜を世界中の研究者や学生が交流する中心地にしたい。それから、学問には「哲学を学ぶなら京都」というような地域イメージがあります。ならば「新しいものを生み出すなら横浜」と言われるようにしたい。産官学がしっかりと連携し、次々と何かを生み出すまち。横浜はもともとそういう場所ですからね。



規矩 大義 (きく・ひろよし)  
学校法人 関東学院理事長

### 包括連携協定の具体的な取り決め

- (1) 組織間連携
    - 関東学院大学社会連携センター、神奈川大学社会連携センターの情報共有(社会連携ホットライン開設)
    - 外部の依頼・相談(コンペ含む)の共有
  - (2) 防災連携
    - 地域の防災・減災、危機管理の推進に向け、連携した取り組みを具体化
  - (3) イノベーション創出につながる「知」の連携
    - 両大学は、2021年春に発足する「イノベーション都市・横浜」推進コンソーシアム(仮称)に結集し、同コンソーシアムがイノベーションエリアとするMM・関内地区を中心に地域課題の解決・実証実験、ベンチャー企業の育成、イノベーション創出に向けた企業との共同研究などに積極的な関与
    - 次世代のイノベーション育成に向け、両大学の研究者や賛同する企業が若者に起業家スキル、マインドなどを醸成する各種事業を展開
  - (4) SDGs推進、観光振興に資する連携
    - SDGsの先端都市として取り組みを強める横浜市と連携し、全国の高校生向け体験型学習プログラムを開発、SDGs学習につながる観光ルートなどを掘り起こすコンテンツをつなぎパッケージ化。近場の学校向けのスマイルパッケージの作成も実施
  - (5) リカレント教育に関する連携
    - 両大学それぞれの独自性を維持しながらも統一感、一体感をもった公開講座づくり、社会人向けの共同教育プログラムの作成、運営
- ※リカレント教育…社会人になってからも、学校などの教育機関に戻り、学習し、また社会へ出ていくという生涯を続けることができる教育システム
- (6) 施設開放に関する連携
    - みなとみらいキャンパス、関内キャンパスの展示スペース、ギャラリーでの横浜市立小・中学校の各種コンクール入賞作の展示、ホールでの発表に寄与
  - (7) 学生のキャリア支援に関する連携
    - 横浜経済界と連携し、地元企業に対する両大学の学生への就職支援を実施

**KU**  
**神奈川大学**  
みなとみらいキャンパス  
2021年4月開設  
国際日本学部 外国語学部 経営学部



2021年4月に新設する「みなとみらいキャンパス」は、「『国際・日本』の融合した未来『創造・交流』キャンパス」というコンセプトのもと、世界や地域に開かれ、多様な人や文化が交流する新たな「知の拠点」となります。高さ約100m、21階建ての都市型・未来型の新キャンパスには講義室や研究室、図書館、学生食堂などの施設が入るほか、ラーニングコモンズやプレゼンフィールドなどの新たな学びに対応した開放的な空間が広がります。国際日本学部、外国語学部、経営学部のグローバル系3学部が集まる多様性に溢れるキャンパスで、周辺の国際企業や官公庁、文化施設などとの産官学連携をさらに強め、低層階には社会との接点となる「ソーシャルコモンズ」を配置し、独自の教育・研究を展開していきます。



**KGU**  
**関東学院大学**  
横浜・関内キャンパス  
2023年4月開設予定  
法学部 経営学部  
人間共生学部(コミュニケーション学科)

社会とつながるキャンパスとして2023年に開設予定。夜まで稼働するキャンパスは、学生だけでなく企業・自治体・市民などに開かれた教育プログラムを設置し、イノベーション拠点を目指します。また、社会に開かれたキャンパスとして、ホール、ギャラリー、ラウンジ、コワーキングスペース、ブックカフェなどの施設の市民開放も予定しています。「社会連携教育」拠点として、企業や自治体と連携した多彩な教育プログラムを通じ、横浜開港以来、「国際都市横浜」のイメージをけん引してきた、関内の街全体をキャンパスとした学びを展開していきます。